

# 宇地泊歴史文化遺産マップ



## ①宇地泊兼久原遺跡群

約6000年前から琉球王府時代まで続く遺跡で、人々の住んだ跡や埋葬した跡なども見つかりました。



## ⑤ジャナマガヤー

戦前の旧県道が、ここで大きく西に曲がっていたために、ジャナマガヤーと呼ばれていました。



## ④宇魂之塔

戦没者慰靈の為、1956年（昭和31年）12月に建立されました。93柱の戦没者を祀っています。

## ⑥ウグワンシー山

宇地泊の聖地のひとつで、現在の宇地泊バス停付近にありました。周辺には松などの樹木が生え、真ん中に大きな岩があり、その前に3個の海石が安置されていたと伝わっています。

## ⑦沖縄県営軽便鉄道「大謝名駅」

ケーピンの愛称で知られる沖縄県営軽便鉄道の嘉手納線（1922年開通）において、宜野湾村（当時）には、大謝名駅、真志喜駅、大山駅が設置されました。



## ⑧宇地泊西原丘陵古墓群

約190基の墓が確認されており、宜野湾市内の墓の造りや埋葬の様子を知る上で重要な古墓群です。また、陣地壕も確認されています。



## ②ナークガマ

浜下りや屋敷の危払いの時に利用したところと伝わっています。

## ③マヤーガマ

マクジャーガマとも呼ばれます。昔のお墓として利用された場所です。

## ⑨クンカ

宇地泊のウブガマで、若水(ワカミジ)や産水(ウブミジ)を汲んだ湧水です。



## ⑩ヒートウージー

宇地泊一帯を見晴らす高台にある岩で、旧暦4月1日の海神祭(ウミノウグワン)の際に自然の恵みに感謝をする場所です。ヒートウージーの側にあるヒートウモー(イリヌモー)と呼ばれる広場では、捕獲したイルカを解体し、地域住民に分配しました。

## ⑪龍宮神

海の神様を祀る拝所です。旧暦4月1日の海神祭(ウミノウグワン)においても拝まれます。



## ⑫合祀所

合祀所に向かって、左側に「西のうたき」、「屋号:大屋(ウフヤ)の火の神」、「宇地泊の火の神」が、右側に「東のうたき」、「屋号:宮里(ナーザト)の海神様」が祀られています。



## ⑬浦添 牧港の風景

1853～54年に琉球を訪れたペリー提督に同行した画家、ウィリアム・ハイネによって描かれました。  
(沖縄県立博物館・美術館 所蔵)



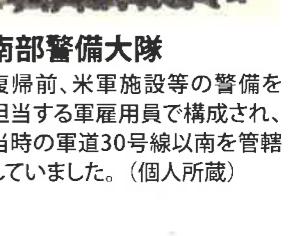
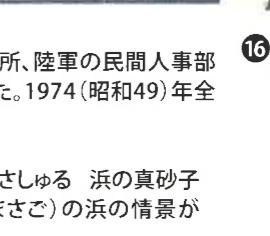
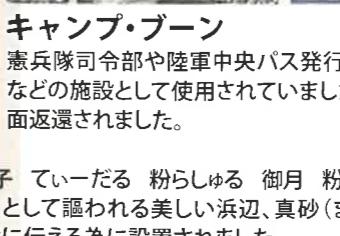
## ⑭奥間ノ口墓

この地域を管轄していた謝名(真志喜)ノロが葬られたお墓です。当初はハンタヌンチャーと呼ばれる崖地にありましたが、現在地へ移されました。



## ⑮昭和初期の宇地泊の入江

昭和10年頃の宇地泊の入江を撮影した貴重な写真です。山原船の後に牧港橋が見えます。  
(沖縄市立郷土博物館 所蔵)



## ⑯南部警備大隊

復帰前、米軍施設等の警備を担当する軍雇用員で構成され、当時の軍道30号線以南を管轄していました。(個人所蔵)



## ⑰キャンプ・ブーン

憲兵司令部や陸軍中央バス発行所、陸軍の民間人事部などの施設として使用されていました。1974(昭和49)年全面返還されました。



## ⑱真砂の碑

うちどまり 真砂子 ていだる 粉らしゅる 御月 粉さしゅる 浜の真砂子 瑞歌「宇地泊節」として謳われる美しい浜辺、真砂(まさご)の浜の情景があつたことを後世に伝える為に設置されました。

